

## 水郷のまちな いまを訪ねて

*The Present of Sawara, a Riverside Town*

研究室が過去にプロジェクトとして活動していた千葉県佐原。水郷のまちないまを、プロジェクトに参加していなかった修士1年の学生が訪れた。



まちの中心である忠敬橋から町並みを眺める

## 佐原プロジェクトー観光地のまちづくりー

*Sawara Project, Community Development in Tourist Site.*

text\_FUJIWARA / M1

佐原プロジェクトは2008年から2017年まで窪田亜矢先生（現：地域デザイン研究室特任教授）が中心となって都市デザイン研究室のプロジェクトとして活動していた。栃木、川越と並んで関東三大小江戸と称される佐原はその町並みや夏、秋の大祭を目当てに多くの観光客が訪れるが、人口減少や高齢化の進展、中心商業地の疲弊から町並みや文化を将来へどのように継承するかが課題とされていた。

このような課題がある中で、都市の「中心」の議論から空き町家の活用提案、夕涼みイベントの実施など、マクロ-ミクロ、ハード-ソフトの各面からまちづくりを行っている点が特徴的である。特に小野川沿いの空き町家を改修して始まった、高校生とのまちづくりの取組みである「さわらぼ」はプロジェクトが終了した現在でも活動が続けられているように、佐原のまちに与えた影響は大きいようである。



▲「さわらぼ」での会議の様子(2016)

## 新年、留学生と佐原をめぐる

*Walk around Sawara with International Students.*

千葉県香取市に位置する佐原は江戸期に利根川水運とともに商業の町として栄えた。1996年には関東初の重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建地区）に



選定され、2016年には地域の一大祭りの、佐原の山車行事がユネスコ世界無形文化遺産に指定されるなど観光地としてのポテンシャルが非常に高い。そんな佐原の町を都市デザイン研究室修士1年を中心とした、留学生3名を含む学生11名が訪れた。

東京駅から高速バスでおよそ1時間半、佐原駅に降り立つ。まず向かったのは駅からすぐの佐原観光協会駅前案内所。ここには日本語はもちろん、英語、中国語、タイ語など多数の言語の案内があり、毎年多くの国から観光客が訪れていることが推察できる。ボランティアの方々が見所や食事処を丁寧に案内してくださり、事前に準備する必要がほとんどないほどであった。

そこから歩いて10分、佐原の重伝建地区に着く。町並みを眺めながら歩いていると福新呉服店というお店の前に立っていた方に声をかけられた。「都市デザイン研究室の学生です」という「ナッタボンさん（佐原PJで活動されていた方）の後輩ね」とお店の中を親切に案内していただいた。これは特別なことではなく、佐原では「佐原まちぐるみ博物館」という取組みを2005年から始めており、自由に

建物の中を見ることができる。現在では40を超える「博物館」があり、重伝建地区を含む商家がその家に代々伝わる調度品や昔の商売道具、歴史ある蔵、庭園などを展示している。

まちの骨格である小野川と香取街道が交わる忠敬橋に立つと重伝建地区の町並みが一望できる。お昼ごはんはそこから北に少し歩いたフランス料理店で頂いた。フランス料理店といっても西洋風の店舗ではなく、空き町家を改修した日本風の店舗となっている。このように空き町家を活用した店舗は地区内に多数あった。その後は伊能忠敬旧宅や旧三菱銀行佐原支店、佐原山車会館などをめぐり、佐原の町で最も高いであろう諏訪神社近くの展望台からまちを眺め、帰途に就いた。

この旅行では留学生に日本の文化や建物、町並みについて英語で説明することが多かった。日常会話程度ではなく、都市計画的な議論なども行える英語力を身につけたい。



▲福新呉服店の中庭。左手の廁もそのまま残されている



▲建物だけでなく建物間の路地も魅力の一つ



▲諏訪山展望台から市街地を一望する



# それぞれの決意を書き初め

text\_MAEYAMA/M1

Write Each Determination for the First Time in the New Year.

慌ただしい年末を終え、正月休みから日常に戻りつつある1月16日、研究室の先生方お二人に書き初めをしていただきました。

その起源は平安時代にも遡るという"書き初め"は小学生や中学生のときには行事として馴染みのものですが、歳を重ねることに行為なくなっているのではないのでしょうか。日々いろいろな事柄に追われているからこそ、改めて自分を見つめなおし決意

を書き示すことが大切なような気がします。今年だけでなく来年以降も続く行事となればと思います。

先生方には「2019年大切にしたいこと」に加えてそれにまつわるメッセージを頂きました。研究室に様々な変化が起きるだろう2019年も、一人一人がそれぞれの決意を忘れずに邁進していきましょう。

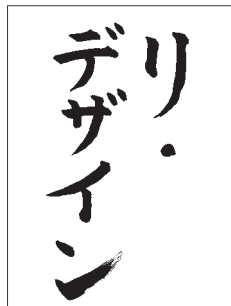


▲久しぶりの書道に戸惑いながらも筆を進める両先生

## 書き初めテーマ

### 2019年 大切にしたいこと

What you want to value  
in 2019



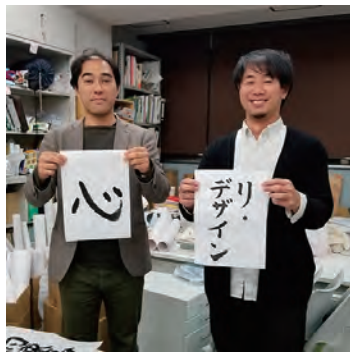
#### 中島直人先生

今年大切にしたいこと、30年くらいぶりの半紙を前にしたプレッシャーのもとで、一文字、「心」と書きました。深く考えたわけでもなく、ことさら今年とはということでもないのですが、志しの高い、心有る研究者、それ以前に心遣い、心配りのできる人間でありたいと思っているのは確かです。なかなかそうなれないのも事実ですが、初心から離れず、人の心の琴線に触れるような「都市計画」を目指して、今年も努力を重ねていきます。

#### 永野真義先生

リ・デザインとは、デザインされたものをさらに高次に引き上げること。各まちに飛び込んで実践するPJでも、過去のデザインを読み解いて次を考えるということが、当然の方法論として内部化されているように感じます。だからこそ次に向けたデザインに、再び力を注ぎたい。

昨年西村先生が退職され、まもなく訪れる春には次の体制がはじまっていることでしょう。研究室のリ・デザインに少しでも貢献できる機会は、誰もが得られるものではありません。もしかしてその最初の任務は、研究室レイアウトのリ・デザインに始まるのかもしれませんが。



先生方だけでなく M1 数名も同じテーマで書き初めを行いました。それぞれがそれぞれらしい内容で、どれも大学院生活を数カ月過ごしてきたからこそ言葉が並んでいるように感じます。現在研究室にはこの決意を忘れないように各々のロッカーに書き初めが掲示されており、かつて通った学校の教室のようです。



## Information



### Hey listen, -ちょっと聞いて！

#### 1.17 手賀沼 PJ 実測調査



手賀沼フィッシングセンター内の改修設計の提案に向けて敷地内実測調査を行いました。これから、調査結果をもとに魅力的な提案を考えて行きます。(M1 松本)

#### 1.21 丸岡居住意向調査の速報会



三国PJでは、丸岡城周辺住民アンケートの調査報告を行いました。地元住民の意見を中心に、今後のまちづくりに重要な情報を共有しました。(M1 岡野)

#### 1.19 浦安魚市場調査、進行中！



12月から実施してきたインタビューもいよいよ大詰め、展示の作成に取り掛かります。市場の朝は早く、休日でも多くの人でにぎわっています。(M1 前山)

#### 1.27-28 修論審査



修士論文審査が行われ、本研究室からはニュータウンのセンター計画、町並み再生、花街、支店経済についての研究が発表されました。(M1 小田島)

博士・修士課程の審査があり、いよいよ年度の総決算といった様相のある1月。PJでも展示や報告といった行事が増えてきました。

### 1月のWebマガジン

<http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>



#### 1.28 Wei's Farewell Party

留学生 Wei さんの帰国に際しお好み焼き屋でFarewell Partyを開催。また日本にきた折には、様々なまち、様々な食べ物を紹介したい。(M1 前川)



#### 1.31 富山現地調査

富山市へ2回目の現地調査。来年度調査に向けて、まちなかの拠点を巡りイメージを膨らませ、2019年度の足音が聞こえてきます。(M1 山口)

### 2月の予定

#### Lab. Meeting

冬休み

#### 展示中

3rd (Sun.)

4th, 5th

12th, 13th

23rd (Sat.)

24-28th

「高島平ヘリテージ 50」@板橋区役所

浦安魚市場記録 展示開始

修士・博士ジュリー

卒業論文・卒業設計発表

富士吉田勉強会

富山PJ メルボルン視察

### ✂ 編集後記

旅行の集合場所の東京駅まで満員電車に乗ったが、やはり満員電車は好きになれない。いつも歩いて通学しているものもあるが、移動中に何もすることができないというもある。時間価値という概念があるが、速く移動することだけが重要なのか。最近では、移動中に色々な作業をすることもできるようになったから、満員電車は見送って少し空いた電車を持った方が合計の時間は多くとれる気がする。来春には否応なしに満員電車に乗らないといけないのかと思うと気落ちしてしまう。歩いて暮らせる日々を楽しもう。(M1 藤原)